

2018年10月12日

世界最高水準のディープラーニング技術を応用(※1)

「顔認証による入退セキュリティ&オフィス可視化システム」の実証実験を実施



パナソニック株式会社(代表者:津賀一宏)は、ディープラーニング技術を応用した顔認証技術の活用による「入退セキュリティ&オフィス可視化システム」(仮称:KPAS)の実証実験を2018年10月16日~19日に幕張メッセにて開催される「CEATEC JAPAN 2018」のプレスセンターで実施します。

従来のICカードを用いた入退セキュリティシステムは、登録・発行・配布に手間がかかり、一時的な来訪者などの管理では煩雑な面がありました。加えてカードの貸し借りによるなりすまし・不正入場、盗難・紛失等はセキュリティ・インシデントとして管理者側にとっての問題や負担となっていました。

「CEATEC JAPAN 2018」のプレスセンターは、従来はプレスバッジによる入退室管理でしたが、本実験では当日にプレス登録カウンターで顔画像と名刺を登録すれば、以降は顔認証のみで入退室ができるようになります。バッジの貸し借りや盗難による不正入場を防ぎ、セキュリティ強化と利便性向上が図れます。

当社は、これまで空港やアミューズメントパークでの入出園管理で顔認証技術を応用したシステムを開発していますが、この度の本実証実験を通じて顔認証による入退セキュリティとオフィス可視化システム(仮称:KPAS)の実用化を検証します。

当社の顔認証による入退セキュリティとオフィス可視化システム(仮称:KPAS)は、入退室管理に加え名刺情報と顔情報の連携により、従業員や一時的な来訪者が施設のどこを通過したか、会議室で誰と誰がミーティングを行ったかを可視化します。これにより会議中に、出席者の顔と名前・訪問履歴等を即座に確認することができ、コミュニケーションの活性化が期待できます。また蓄積されたビッグデータにより人脈の可視化、施設稼働率・使用人数の算出が可能となり、働き方改革の指標としても活用できます。

なお、顔認証による入退セキュリティとオフィス可視化システム(仮称:KPAS)は、パナソニックがB2B向けに展開するIoTサービス「μSockets(ミューーソケッツ)」の一つとして提供予定です。

今後は実用化に向け開発を加速し、MICE施設(展示場・国際会議場)、オフィスビル・商業施設などに展開、「ストレスが無い安心のハイ・セキュリティと、快適で効率的な空間実現」の両立を目指します。

※1 2017年5月10日「ディープラーニングの応用で世界最高水準の顔照合技術を開発」を発表

■「CEATEC JAPAN 2018」のプレスセンターでの実証実験のイメージ



名刺と交換にプレスバッジを受領します／顔認証を利用しない方は プレスバッジで入室できます

※ 取得した顔画像・名刺情報はプレスセンター利用の本人確認のみに利用し、会期終了後、完全に廃棄されます。

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。